

介護福祉士専門学校生の学校生活に対する充実感と 学習動機の関係性

上 村 幸 子

新潟医療福祉カレッジ介護福祉士基礎学科

The relationship between care worker's vocational school student's sense of fulfillment in school life and learning motivation

Kamimura Sachiko

NIIGATA IRYO-FUKUSHI COLLEGE

Abstract : It is a teacher's desire that students who enter for the purpose of becoming caregivers will "grow" as professionals while feeling "challenging" even after entering employment. I want to clarify the relationship between the sense of fulfillment of school life and the motivation for learning. Based on the results, I want to stimulate the motivation of students to learn and provide feedback to their educational activities so that they can keep their motivation.

78% of the students "feel full of studying at school". "Students who feel fulfilled by school training and volunteers" account for 80% of the total. Students who felt more fulfilled in studying felt more fulfilled in practical training and volunteers.

The motivation of the care worker vocational school students for fulfillment and practical orientation led to a sense of fulfillment in school life. Utilizing the pleasure of investigating and practicing real lectures are necessary for students' fulfilling school life. That leads to the emphasis on the learning content of the students themselves and the deepening of the learning methods.

Key Words : Care worker vocational school student, School life satisfaction, Motivation for learning, Student survey

抄録 : 介護福祉士を目指して入学した学生が、入職後も「やりがい」を感じながら専門職業人として「成長」する事は、教員の願いである。「学校生活の充実感と学習動機の関係性」を明らかにし、その結果から、学生の学習動機を刺激し、学生自身が学習動機を持続けられるように学生の教育活動にフィードバックしたい。

「学校の勉強に充実感を感じている」学生は、全体の78%。「学校の実習・ボランティアに充実感を感じている学生」は、全体の80%。勉強に充実感を感じている学生ほど実習・ボランティアにも充実感を感じていた。

介護福祉士専門学校生の充実志向と実用志向の学習動機は、学校生活の充実感につながっていた。調べることの楽しさを活用し、リアルな講義の実践が学生の学校生活の充実感には必要である。その事が、学生自身の学習内容の重視や学習方法の深まりにつながる。

キーワード : 介護福祉士専門学校生、学校生活の満足感、学習動機、学生アンケート

1. はじめに

(1) 研究動機

若者の3年以内の離職率いわゆる早期離職は30～40%と言われている。その一方で、90%近い若者が仕事に求めるものを「やりがい」や「成長」と答えている。介護福祉士を目指して入学した学生が、卒業・入職後も「やりがい」を感じながら専門職業人として「成長」する事は、教員の願いである。

しかしA介護福祉士専門学校において中途退学者は、毎年数名存在する。介護福祉士に希望を抱いて入学した学生が、学校生活に充実感を感じているのか、現在どのような学習動機を持つのかを確認する。そして、その学習動機を支えながら、将来専門職業人として自律して「成長」していける様に学習基盤を作る事が教員の役割である。

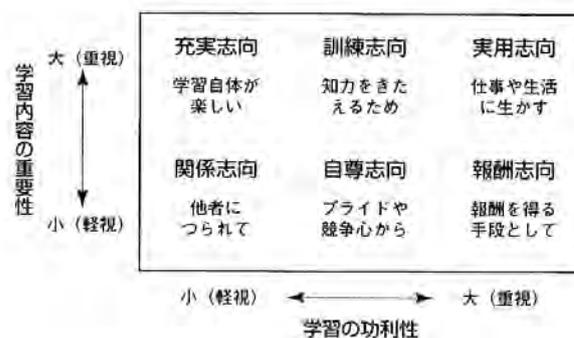
先行研究は「介護福祉士の入学後まもない時期の対人関係や自尊心など内面的変化」がある。また「全国大学メンタルヘルス研究会」で「介護福祉士専門学校学生の入学動機とその支援」をシンポジウムで取り上げている。しかし、学校生活の充実感や学習動機に焦点を置いた研究はない。「学校生活の充実感と学習動機の関係性」を明らかにし、その結果から、学生の学習動機を刺激し、学生自身が学習動機を持ち続けられるように学生の教育活動にフィードバックしたい。

(2) 研究目的

在学中の学生が、学校生活に充実感を感じているのか、どのような学習動機を持つのかを知る。そして、学校生活の充実感と学習動機の関係性を明らかにする。その結果から、学生の学習動機を刺激し、学生自身が学習動機を持ち続けられるように、教育活動にフィードバックする方法を考察する。

(3) 用語の定義

市川伸一の学習動機の2要因モデル（学習の功利性と学習の重要性）より、①充実志向：学習自体がおもしろい、②訓練志向：頭を鍛えるため、③実用志向：仕事や生活に活かす、④関係志向：他者につられて、⑤自尊志向：プライドや競争心から、⑥報酬志向：報酬を得る手段として、の6種類に分類された学習動機を用いる。【図1】参照



【図1】

(4) 研究方法

以下の内容が無記名自記式質問紙法で行った。

【表1】参照

- 学校生活の充実感を「勉強」と「実習・ボランティア」の2項目で「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの4段階の多項目選択式で行った。
- 同時に「市川伸一の6種類の学習動機」¹⁾を「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの4段階の多項目選択式で行った。

6種類の学習動機を、その種類が分からないようにアンケート項目を散らして、最後に動機の種類ごとに合計得点を計算した。

(5) 倫理的配慮

- “市川伸一の6種類の学習動機の使用”ならびに“5段階評価を4段階評価に変更して使用”する許可を得た。
- 本研究計画は、職業教育研究開発センター研究倫理専門委員会の承認（承認番号19-11）を得た。
- A専門学校長および統括学科長より許可を得た。
- A介護福祉士専門学校2年学生46名にアンケート目的、研究協力は任意である事アンケート内容は成績に関係はしない事を説明した。

2. 結果

回収率：95.6%、有効回答率：81.8%。

学校の勉強に充実感を感じている学生は、4段階の「4よくあてはまる」を選んだ学生は36%だった。4段階の「3少しあてはまる」を選んだ学生は

【表1】

学校生活と学習に関するアンケート

まず初めに『あなたの学校生活』について質問します。

次の質問が自分に、「よく当てはまる」人は4に、「全く当てはまらない」人は1に、○をして下さい。中間の人は2、3のいずれかに○をして下さい。

学校の勉強が楽しい・充実している・満足感がある	4	3	2	1
学校の実習やボランティアが楽しい・充実している・満足感がある	4	3	2	1

次に『あなたの勉強の動機（勉強したいと思う気持ち）』について質問します。

次の質問が自分に、「よく当てはまる」人は4に、「全く当てはまらない」人は1に、○をして下さい。中間の人は2、3のいずれかに○をして下さい。

1	新しいことを知りたいという気持ちから	4	3	2	1
2	勉強することは頭の訓練になると思うから	4	3	2	1
3	学んだことを、将来の仕事にいかしたいから	4	3	2	1
4	みんながやるから、なんとなくあたりまえと思って	4	3	2	1
5	成績が良いと、他の人よりすぐれているような気持ちになれるから	4	3	2	1
6	成績が良ければ、こづかいやほうびがもらえるから	4	3	2	1
7	いろいろな知識を身に付けた人になりたいから	4	3	2	1
8	勉強のしかたを身に付けるため	4	3	2	1
9	勉強したことは、生活の場面で役に立つから	4	3	2	1
10	友達と一緒に何かしてきたいから	4	3	2	1
11	成績が良ければ、仲間から尊敬されると思うから	4	3	2	1
12	テストで成績が良いと、親や先生にほめてもらえるから	4	3	2	1
13	すぐに役に立たないとしても、勉強がわかること自体おもしろいから	4	3	2	1
14	合理的な考え方ができるようになるため	4	3	2	1
15	勉強で得た知識は、いずれ仕事や生活の役に立つと思うから	4	3	2	1
16	親や好きな先生に認めてもらいたいから	4	3	2	1
17	ライバルに負けたくないから	4	3	2	1
18	学歴や資格があれば、将来、経済的に良い生活ができるから	4	3	2	1
19	何かができるようになっていくことは楽しいから	4	3	2	1
20	いろいろな面からものごとを考えられるようになるため	4	3	2	1
21	知識や技能を使う喜びを味わいたいから	4	3	2	1
22	周りの人たちがよく勉強するので、それにつられて	4	3	2	1
23	勉強して良い学校を出た方が、りっぱな人だと思われるから	4	3	2	1
24	学歴や資格があった方が、社会に出てから得なことが多いと思うから	4	3	2	1

25	勉強しないと充実感がないから	4	3	2	1
26	勉強しないと、筋道だった考え方ができなくなってしまうから	4	3	2	1
27	勉強しないと、将来、仕事の上で困るから	4	3	2	1
28	みんながすることをやらないと、おかしいような気がして	4	3	2	1
29	勉強が人並みにできないのはくやしいから	4	3	2	1
30	勉強しないと親や先生にしかられるから	4	3	2	1
31	わからないことは、そのままにしておきたくないから	4	3	2	1
32	勉強しないと、頭のはたらきが衰えてしまうから	4	3	2	1
33	仕事で必要になってからあわてて勉強したのでは間に合わないから	4	3	2	1
34	勉強しないと、親や先生に悪いような気がして	4	3	2	1
35	勉強が人並みにできないと、自信がなくなってしまういそうだから	4	3	2	1
36	学歴や資格がないと、将来、良い仕事先がないから	4	3	2	1

〈引用〉市川伸一：学ぶ意欲の心理学、2001 第 1 版、PHP 研究所

【集計】質問番号ごとに小計を出して、最後に合計点を計算して下さい

A : 質問番号 ; 1 [] + 7 [] + 13 [] + 19 [] + 25 [] + 31 [] = []

B : 質問番号 ; 2 [] + 8 [] + 14 [] + 20 [] + 26 [] + 32 [] = []

C : 質問番号 ; 3 [] + 9 [] + 15 [] + 21 [] + 27 [] + 33 [] = []

D : 質問番号 ; 4 [] + 10 [] + 16 [] + 22 [] + 28 [] + 34 [] = []

E : 質問番号 ; 5 [] + 11 [] + 17 [] + 23 [] + 29 [] + 35 [] = []

F : 質問番号 ; 6 [] + 12 [] + 18 [] + 24 [] + 30 [] + 36 [] = []

合計 []

ご協力ありがとうございました。

この用紙を封筒に入れて、〇〇日 17 時までに提出下さい。

結果は慎重に考察し、今後の教育活動に生かすことをお約束致します。

介護福祉士基礎学科 教員 ○○○○

42%であった。4と3を合計して「学校の勉強に充実感を感じている」学生は全体の78%であった。

【グラフ1】参照

学校の実習・ボランティアに充実感を感じている学生は、4段階の「4よくあてはまる」を選んだ学生は25%だった。4段階の「3少しあてはまる」を選んだ学生は55%であった。4と3を合計して「学校の実習・ボランティアに充実感を感じている学生」は、全体の80%であった。【グラフ2】参照

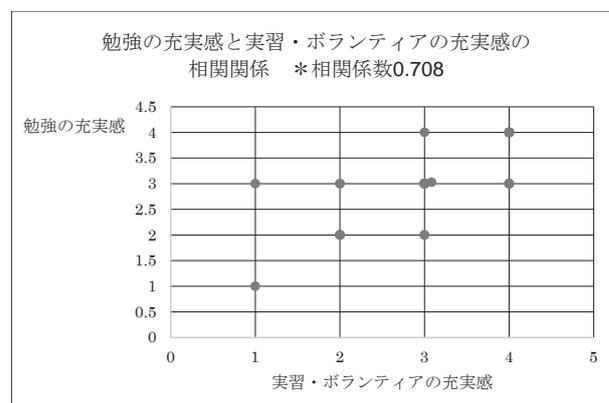
勉強の充実感と実習・ボランティアの充実感の相関関係は、相関係数0.706で正の相関関係にあった。つまり、勉強に充実感を感じている学生ほど実習・ボランティアにも充実感を感じていると言え、勉強に充実感を感じていない学生は、実習・ボランティアにも充実感を感じていないと言える。【グラフ3】参照

次に、勉強の充実感と充実志向の学習動機の関係性を見た。両者の関係は、相関係数0.67で正の相関関係が見られた。学校の勉強に充実感を感じている学生は、充実志向の学習動機が高い結果が得られた。同様に勉強の充実感と実用志向の学習動機に

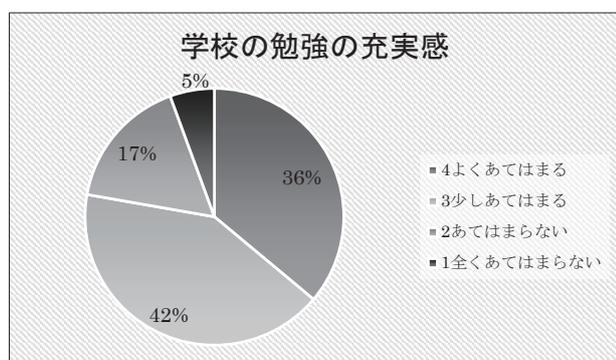
も、相関係数0.68で正の相関関係が見られた。学校の勉強に充実感を感じている学生は、実用志向の学習動機が高かった。【グラフ4】【グラフ5】参照

3. 考察

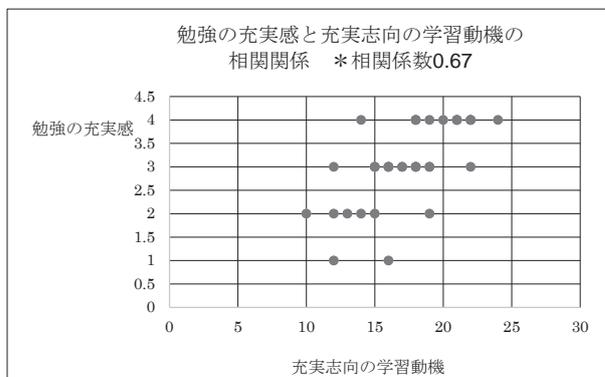
充実志向は、学習自体が楽しく充実感を感じるということである。当校ではアクティブラーニングを取り入れ、学生は常態的なグループによる協同学習を行っている。この協同学習では自分たちの目指す



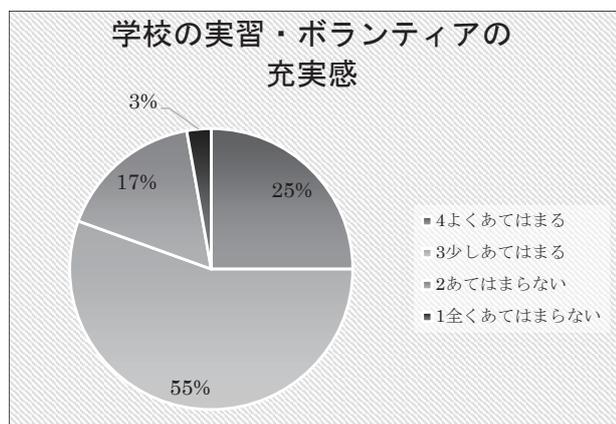
【グラフ3】



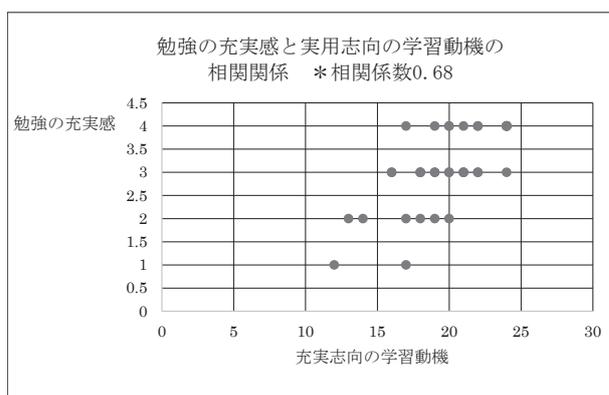
【グラフ1】



【グラフ4】



【グラフ2】



【グラフ5】

学習目標が到達可能と思える内容で明確である。そのため、学生はフロー状態に入りやすい。その結果、グループ間で互いに教え合いながら学習自体を楽しく行っている。この方法により、学生は充実志向の学習動機を高めている。充実志向の“楽しい学習動機”は、“楽しい学校生活”の充実感につながっている。

また自分の将来の仕事の役に立つ実用志向の学習動機も、学校生活の充実感につながっている。介護現場に見られる事例を活用し、実習につなげることで学習意欲が刺激される。市川は「内容関与的な動機の場合は、学習の内容自体を重要視して、それを身につけたいと思っているわけですから、学習のしかたも深まってきます。…(中略)…学習の質が高まってくる。(ママ)」²⁾と述べている。この充実志向の学習動機によって将来の自分がイメージ出来て、社会的自尊感情を高めることにつながっている。A校の学生は、高校を卒業しストレートで進学して来る学生が多い。高校までの学習過程で社会的自尊感情が育ちにくい状況にあった学生も多い。中には不登校の経験者など基本的自尊感情の低い学生もいる。全体的には“のんびり屋でマイペース”な学生と“さびしく孤独で自信がない”学生が多い。

「学習はあくまで学習者への動機づけが出発点であることを忘れてはならない。児童生徒は常に自己発見、自己統合、自己実現をめざす積極的な存在であるという前提を忘れてはならない。」³⁾と杉江は述べている。一斉講義は最小限にとどめて、グループでの協同学習を中心に授業し最後はc-learningで確認テストする。c-learningでは、正解になるまで教師が見守る。その結果達成感を感じてもらうことで、ありのままの自分を肯定でき、グループメンバー・教員と共有体験することになる。「内発的に動機づけられた学習経験の積み重ねは、興味、関心態度のような積極的な学習の構えを培うことにつながる。」⁴⁾とも杉江は述べている。このことから充実志向や実用志向の学習動機を刺激することは、今後の学生自身の学習内容の重視や学習方法の深まりにつながる。

今後も、常態的なグループで協同学習と教員との信頼関係を基盤にした学びの楽しさで充実志向を刺激し、リアルな講義で実用志向を刺激する授業を展

開する。そして、介護福祉士が、「やりがい」や「成長」につながる意味のある尊い役割である事を伝えながら学習動機を維持する必要がある。その授業展開が介護福祉士として自律し生涯学習を続ける専門職業人の育成につながる。

4. 結論

介護福祉士専門学校の2年学生の充実志向と実用志向の学習動機は、学校生活の充実感につながっている。調べることの楽しさを活用し、リアルな講義の実践が学生の学校生活の充実感には必要である。その事が、学生自身の学習内容の重視や学習方法の深まりにつながる。

5. おわりに

今後も、学生が充実感・満足感を感じ、自尊感情が高まり自律した専門職業人につながるような授業を実践していきたい。

この研究をまとめるにあたりご指導くださった諸先生をはじめ、アンケートに協力してくれた学生に感謝する。

6. 文献

(1) 引用文献

- 1) 市川伸一(2001)「学ぶ意欲の心理学」 p.54 PHP研究所
- 2) 前掲書 p.60
- 3) 杉江修治(2018)「協同学習入門 基本の理解と51の工夫」p.31 ナカニシヤ出版
- 4) 前掲書 p.31

(2) 参考文献

- 1) 小池伸一他(2009)「作業療法学科学生の学生間における学習動機について」吉備国際大学 保健科学部紀要
- 2) 平成16年度 全国大学メンタルヘルス研究会シンポジウム 「介護福祉士専門学校学生の入学動機とその支援」
- 3) 梶田毅一(1992)「真の個性教育とは」国土社
- 4) 桜井茂男(1997)「学習意欲の心理学 自ら学ぶ子どもを育てる」誠信書房
- 5) Maryellen Weimer(2013)「LEARNER-CENTERED TEACHING」メイリン・ワイマー 関田一彦(訳)(2017)「学習者中心の教育 アクティブ・ラーニングを活かす大学授業」勁草書房

受付日：2020年4月27日